

薬剤師をめざす人のために

薬剤師が調剤した薬を患者が安心して服用する。患者宅を訪問した薬剤師を、患者や家族が自然に迎え入れる。薬剤師が提案した処方変更を、医師が信頼して受け止める。——こうした一つひとつの場面を支えているものこそ、薬剤師への「信任」です。そして、薬剤師という国家資格は、その信任を社会から得るための、揺るぎない基盤です。

皆さんがこれから歩む「薬剤師への道」は、2006年（平成18年）に6年制へと移行した薬学教育制度に支えられています。医療技術の急速な進歩、医薬品開発の高度化、医薬分業の進展——薬学を取り巻く環境は大きく変化し、従来の4年制教育では求められる役割に応えきれない、そう判断されたからです。特に、病院・薬局での長期実務実習が必修化されたことは、実践的な学びを重視する6年制教育の柱となっています。

薬学教育モデル・コア・カリキュラムは、全国の薬学部に通ずる「学べき核心」を示したものです。2002年の策定以降、時代の変化に合わせて改訂され、2022年改訂では医学・歯学・薬学の3領域が共通の目標として「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」を掲げました。薬剤師に求められる十の基本的資質・能力の中には、新たに「総合的に患者・生活者をみる姿勢」や「情報・科学技術を活かす能力」が加わり、薬剤師として生涯にわたり研鑽を重ねることが求められています。

本書の初版が刊行されたのは、6年制薬学教育が本格的に動き出した2008年。当時から、本書は実務実習事前学習のためのテキストとして多くの皆さんに選ばれ、指導薬剤師や教員からも信頼されてきました。今回の改訂第4版では、最新の薬学教育モデル・コア・カリキュラムに完全対応するとともに、近年の医学・薬学の進歩、医療制度の変革を踏まえた新しい知見を収載しています。

上下巻からなる本書は、上巻で薬局管理、倫理、服薬指導、リスクマネジメント、病棟業務、OTC医薬品等、薬剤師の姿勢や考え方に直結する内容を扱っています。下巻では、処方箋受付から処方監査、疑義照会、調剤薬監査に至るまで、調剤業務の「技」が豊富なイラスト・写真とともに丁寧な解説されています。また、QRコードから視聴できる動画は、OSCEに対応した標準的な手技を実際の動きとして学べるよう工夫されています。

薬剤師という職業は、人の健康と生命に向き合う、誇り高い専門職です。本書が、皆さんの学びを支える確かな道しるべとなり、薬剤師としての第一歩から、その後の長いキャリアを歩む上での「生涯の友」となることを心から願っています。

2025年11月

公益社団法人薬剤師認定制度認証機構 代表理事
帝京大学薬学部 特任教授
安原真人